

衛生研究所・がんセンター研究局整備事業について

1. 事業の概要

(1) 事業の目的

本事業は、知事部局が所管する「衛生研究所」と病院局が所管する「がんセンター研究局」を一体の施設として整備することで、

安全で適切な研究・検査環境の確保を図る。

また、両研究機関が持っているデータ資源やマンパワー、技術等をお互いが利用可能とすることで、

がんを含む生活習慣病の予防医学、オーダーメイド医療の確立を目指す。

(2) 事業の内容

事業期間 平成18年度から平成21年度(予定)

事業規模 敷地面積 約6,000㎡

庁舎 鉄筋コンクリート造 4階建

延床面積 約10,200㎡

(うちがんセンター研究局分 約2,900㎡)

全体事業費 約61億4千7百万円

(うちがんセンター研究局分 約17億4千8百万円)

事業位置 千葉市中央区仁戸名町

2. 千葉県及び千葉県病院局大規模公共事業等事前評価の実施

(1) 趣旨

千葉県及び千葉県病院局大規模公共事業等事前評価委員会は、「衛生研究所・がんセンター研究局整備事業」を評価するため、千葉県大規模公共事業等事前評価委員会と千葉県病院局大規模施設整備事業事前評価委員会の合同で開催し、知事部局の評価委員7名と医学分野の専門家2名による9名体制で評価を実施する。

(2) 事前評価の実施経緯

平成17年9月15日 事前評価対象事業の決定(知事定例記者会見にて公表)
・「衛生研究所・がんセンター研究局整備事業」の自己評価調書の確定・公表

10月5日～11月4日 自己評価調書に対するパブリックコメント実施

10月19日 第1回事前評価委員会開催

10月21日、11月7日・16日 評価委員会現地視察

平成18年2月15日 第2回事前評価委員会開催

6月7日 第3回事前評価委員会開催

7月19日 第4回事前評価委員会開催

7月26日 評価委員会からの「意見書」提出

(3) 意見総括

千葉県及び千葉県病院局大規模公共事業等事前評価制度に基づき、平成17年9月15日より評価を開始した「衛生研究所・がんセンター研究局整備事業」(以下、「本事業」という)について、現地視察の実施及び4回の審議(平成17年10月19日、平成18年2月15日、6月7日、7月19日)を踏まえ、千葉県及び千葉県病院局大規模公共事業等事前評価委員会(以下、「委員会」という)の意見を下記のとおり集約するに至った。

事業部局より提出されたデータ及び説明から、本事業が、あすのちばを拓く10のちから(以下、「10のちから」という。)千葉県保健医療計画(以下、「医療計画」という。)及び生活習慣病を中心とした千葉県の健康・医療ビジョン(以下、「千葉県ビジョン」という。)の中に位置付けられていることは理解できた。

委員会は、こうした政策目的を実現していくためには、将来的な組織統合を踏まえて、当面は、合築の効果を十分に発揮する機能統合・連携がなされることが必要と考えているが、その具体的なかたちが明確に示されているとの確信を得るには至らなかった。

従って、委員会は、本事業について、次の条件を附すこととし、県においてこの条件を確認できれば、妥当であると考える。

合築の効果を十分に発揮できるよう、両組織の機能統合・連携がなされること

今後、県は、この条件について十分に確認をした上で、財政状況等を勘案しながら、対応方針を決定されたい。

なお、本事業を実施するに当たり、経費節減及び計画的な事業推進等についても配慮されたい。

3. 今後の対応

県民の意見と事前評価委員会の意見を踏まえ対応方針を決定・公表する。

(参考)

1 衛生研究所及びがんセンター研究局の概要(自己評価調書から抜粋)

(1) 衛生研究所

衛生研究所は、仁戸名庁舎(千葉市中央区仁戸名町666-2、昭和51年建築)と神明庁舎(千葉市中央区神明町205-8、昭和39年建築)からなり、SARS、鳥インフルエンザ、O157、薬剤耐性結核などの健康危機発生時において、県内健康福祉センター(保健所)とのネットワークにおける技術的な中核機関として原因究明や拡大防止を行うとともに、本県の保健医療行政における疫学等の調査研究、食品、水質検査等の試験検査、保健所等への研修指導の技術的・専門的な中核機関としての責務を担っています。

(2) がんセンター研究局

がんセンター研究局(衛生研究所・仁戸名庁舎と同一住所(別の建物)、昭和47年建築)は、千葉県がんセンターの研究部門として、がんの実体の解明と制圧を目指して設置されました。以来、世界に先駆けたがん化やがんの抑制に関わる新しい遺伝子の単離*、解析を行い、最近では小児がんの一種である神経芽腫の予後を予測するためのDNAチップの開発及び実用化を世界に先駆けて成功させました。これらの研究成果は国際神経芽腫学会・遺伝学部門の最高賞であるルカロッティ賞をアジアで初めて受賞するなど世界的にも高い評価を得ています。

また、新規遺伝子の解析から神経難病の重要遺伝子をも発見しており、小規模な研究機関ながら成果を上げるとともに、これらの成果は多数の特許申請にも結びついています。さらに、がんセンター研究局はゲノム解析・組織保存センターとしての役割も担っています。

これらの研究活動を支えるために企業との共同研究、外部からの研究者、研修生の受入れ及び外部資金の獲得も積極的に行っています。

*単離：すべての遺伝子の中からある特定の遺伝子を分離すること

2 千葉県病院局大規模施設整備事業事前評価制度

(1) 制度の概要

千葉県病院局大規模施設整備事業事前評価制度は、県財政に与える影響が大きく県民の関心も高い大規模な施設整備事業について、事前に事業着手の妥当性を検証し、県民や専門家などの意見を聴きつつ対応方針の決定に資するとともに、それらを公表し、意思形成過程の透明化を図り、県民への説明責任を果たそうとするものです。

(2) 合同委員会委員構成

分野	委員氏名(職名)	備考
地方自治	森田 朗(東京大学公共政策大学院院長)	知事部局委員
公共経済	黒川 和美(法政大学教授)	知事部局委員
投資事業評価	川口有一郎(早稲田大学大学院教授)	知事部局委員
民間実務	川野 毅(株ニューオータニ取締役)	知事部局委員
政策評価	坂野 達郎(東京工業大学大学院助教授)	知事部局委員
環境	花木 啓祐(東京大学大学院教授)<任期 H18.3.21 まで>	知事部局委員
社会工学	村木 美貴(千葉大学助教授)	知事部局委員
医学教育分野	徳久 剛史(千葉大学医学部長)	病院局委員
医学研究分野	大木 操(国立がんセンター研究所客員研究員)	病院局委員
合計	9名 8名(H18.3.22~)	

(3) 評価の実施手順

